



2013年の年頭に際し

一般社団法人 全日本建設技術協会 会長 松田 芳夫

2013年の年頭に際し、全建会員のみなさまに一言御挨拶を申し上げます。

昨年は、ここ数年間の懸案でありました公益法人制度改革への対応として、(旧)社団法人全日本建設技術協会は10月1日付を以って“一般社団法人全日本建設技術協会”へと移行し、新しく出発することになりました。

全建は1946年に発足し、1959年に旧制度の社団法人になり、設立以来都合67年の歴史を有しますが、このたび3回目の看板を揚げることとなります。

新法人に移行したからといって、活動の内容が大幅に変わるわけではありませんが、従来一貫して全建設立の目的の一つとしていた、官公庁内部での「建設技術関係者の地位の向上」を、より広く拡張して「建設技術関係者の社会的地位の向上」と修正致しました。

官公庁内部における地位の向上ということも、現代の開かれた社会では、市民やマスコミの評価が高くなければ所詮かなわぬことであると考えたからであります。

新法人制度のもとでは従来のような監督官庁が無くなりますので、国土交通省をはじめ官公庁との縁が薄くなるのではと心配される向きもありますが、そもそも全建の会員の大多数は現役の技術公務員であり、そのような心配は無いものと思われ、現に重要な立場におられる会員のみなさまが今後とも全建との関係は変わらないと云っていただいております。

一昨年の3.11の東日本大震災では被災地の東北地方の全建会員をはじめ建設技術者が活躍され、さらに全国各地から応援にかけつけるということもあり、建設技術者の社会的評価も高まり、また、防災や交通を主体とする公共施設整備の重要性について社会の理解が進むなどの動きが見られました。

さらに昨年12月には、東北地方整備局と仙台空港事務所が、東日本大震災への対応が公務員の模範であると認められ、人事院総裁賞を受賞し、天皇皇后

両陛下が御接見になられました。本当に名誉なことであり、全建会員を代表して心からお祝い申し上げます。

また、各都道府県や市町村においても、知事や首長さんから感謝状や表彰状を受けられている大勢の会員がおられることと思いますが、改めて技術者の仲間として敬意を表する次第であります。

今年も、景気や雇用、国際関係などいずれを見渡しても明るい展望が開けているとは言いにくい状況です。国や地方の財政も厳しい状況にあり、公共事業に携わる技術者が減少しているなかで、インフラの運営管理にあたる建設技術者にとってはより困難な状況になってきます。

昨年の12月、高速道路トンネルの天井パネルが落下するという大事故があり世間を騒がせました。亡くなられた方に心からお悔やみ申し上げますとともに、被害に遭われたみなさまにお見舞い申し上げます。トンネルに限らず設計施工から維持管理に至るまで構造物の安全安心を確保されねばならないことは言うまでもありません。車で走行していたユーザーサイドには何の落ち度も無く、原因の如何を問わず、今後、特に老朽化した構造物に対する不安感の高まり、ひいては建設技術に対するさまざまな課題が指摘されるものと思われまます。

この試練に対し、人員と予算という資源が制約された環境下でのインフラの機能保全の在り方、安全性の確保、維持管理の在り方等について改めて見直すことが我々建設技術者に与えられた責務になりました。しかしながら我々建設技術者のみがこのことをやり遂げ、かつ将来の礎をしっかりと築き上げる唯一の集団です。会員それぞれの部署や立場で真剣な議論がなされるようお願いする次第です。

前途多難ではありますが、この一年の会員のみなさまの御活躍を期待するとともに、みなさまと御家族の御繁栄、御健勝をお祈りいたします。